

「ベストパフォーマンスを発揮している酪農経営、地域とは？」

1. 趣旨

コスト低減を図りながら、現在飼養されている乳用牛の泌乳能力と繁殖能力を、牛への負担を増やさずに最大限発揮（ベスト・パフォーマンス）させていくことが必要であることから、供用期間の延長や繁殖性の改善に取り組んでいる優良な事例を選定し、情報発信・共有を通じて、全国的な啓発を図る。

このため、全国の参考となるような優れた取組を収集する。

2. 情報収集

(1) 収集する取組

検定情報を活用することにより、乳用牛をベストパフォーマンスさせ経営改善を達成した次の①から③のいずれかに該当する取組とする。

① 農家優良事例

(例：供用期間の延長、繁殖性の改善、和子牛の生産 等)

② 地域ぐるみの指導体制の確立の取組

(例：勉強会の開催、農家の巡回監視、TMRの活用 等)

(2) 収集する方法

全国の検定組合に対し、アンケート調査を行うことにより、優良とみられる事例を収集する。

(3) 優良事例を収集する際のポイント（案）

1	優良事例と考えられる農家・組織等の名称
2	現在の具体的活動
3	これまでの成果
4	活動のきっかけ
5	その他（今後の展開方向、活動に関するエピソード等）

(収集する優良事例のイメージ)

① 農家優良事例

ア 千葉県 松本牧場

規模拡大に不利な立地条件であるため、経産牛の飼養頭数は37頭ながら、改良に取り組み自家育成の年間乳量1万キロを超える高能力牛群を作り上げ、年間平均日量33.4kgを搾り、体細胞155千個を維持している。

イ 鹿児島県 平口牧場

国産種雄牛を積極的に利用し、粗飼料を自給することで低コスト生産を実現するとともに、和牛ETによる和子牛販売により、収入増加を図っている。自給粗飼料により乳飼比13%、飼料効果3.4、年間平均日量29.2kgを搾り、分娩間隔は421日である。

ウ 愛知県 アカツキ牧場

ハイレベルな高泌乳量を求めず、事故や病気がない健康な牛群管理を目標とし、具体的には給餌、清掃、適期授精といった基本の飼養管理をきちんと行うこととしている。年間平均日量28.6kgを搾り、体細胞155千個を維持しながら、平均除籍産次は4.8産と長持ちする牛づくりを実践している。

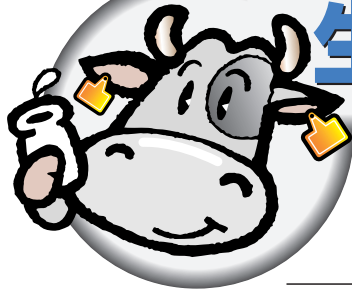
② 地域ぐるみの指導体制の確立の取組

ア 岡山県 おかやま酪農業協同組合

平成19年に酪農支援プロジェクトチームを立ち上げ、飼養管理技術や経営改善に関する農家指導を行い、分娩間隔の短縮を実現するなど、酪農支援活動を実施する組織

収益性の向上を目指し 心懸けよう 着実な改良!!

日本の乳牛改良が支える 生産性の高い酪農経営



 一般社団法人 家畜改良事業団

〒135-0041 東京都江東区冬木11-17 イシマビル17F
TEL. 03-5621-8914(直) FAX. 03-5621-8917
E-mail: webmaster@liaj.or.jp URL: http://liaj.lin.gr.jp/

酪農関係者の総力を結集して作り上げた国産精液を活用し、豊かな酪農経営を実践しておられる方々が数多くおられます。今回は、不利な立地条件ながら改良に取り組み少数精鋭の高



能力牛群を作り上げた千葉県の松本さんと、地域でNTPトップ40種雄牛を積極的に利用し、粗飼料を自給することで低コスト生産を実現している鹿児島県の平口さんをご紹介します。

千葉県 松本牧場の概要

37頭の少数精鋭牛群で1万1千キロの乳量を実現。飼料効率に優れた高能力牛群が実力を発揮!

- 搾乳牛はすべて自家産。37頭の経産牛が活躍中。
- 本人と海外実習生1名の2名で経産牛と育成牛を管理。
- 305日実乳量もしくは期待乳量が、初産平均で9,500キロ、2産以降平均で11,000キロを超える高能力牛群を構築。
- 体細胞数は、年平均16万個以下。
全国平均を大きく下回る高品質乳を生産。



松本さんご本人

鹿児島県 平口牧場の概要

経産牛45頭で高乳量・高成分。粗飼料のほとんどを自給し、低コスト経営で高能力牛群を維持!

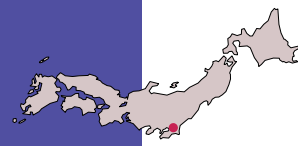
- 家族だけで45頭の経産牛と育成牛を管理。
- 西南暖地で、年間通じて高乳量と高乳質を両立。
- 14ヘクタールの自給飼料農地を確保。コーンと牧草でサイレージをつくり、通年給与による低コスト経営。
- 受精卵移植用のドナーとして20頭の黒毛和牛も飼育。乳牛の腹を活用して、年間30頭の和牛子牛を市場販売。ゆとりある経営を実現。



平口さん(右)と長男で後継者の知人さん(左)



(千葉県) 松本牧場を ご紹介します。



松本牧場における 改良と経営の考え方、そして取り組み。

- 『経営の基本は牛群検定』と自覚し、30年以上前から検定を継続。
- さらに自らミルクメーターを所有し、4日に1度、乳量を確認。
結果は、すぐに飼料給与へ反映。
- 経営の信念は、「良い飼料を牛に十分与えて、乳量を目一杯搾ること。」
- 国内種雄牛の娘5頭が生涯乳量10万キロ突破。高能力かつ長命性を証明。
- 交配種雄牛の選定は、必ず懇意のベテラン授精師と相談して決定。
国内NTPトップ40の種雄牛から乳量と肢蹄に重点をおいて選定。
- 授精は後継牛確保のため。交雑種生産を極力行わないように心がけ。
- 海外産受精卵の雌牛も一部飼養するが、国内種雄牛の娘で自分の経営目標は十分に達成できることを実感。
- 牛舎管理の重点は牛舎の乾燥。換気に重点を置いた牛舎で、ケイ酸カルシウムを活用。



父牛は国内種雄牛が基本。 飼料を効率良く乳に換えています。

▶37頭の経産牛で平均乳量約11,000キロ。経産牛1頭当たりの県平均より約1,800kg高い乳量を実現。牛群検定の活用で体細胞数は年平均16万台を維持。

検定成績 (移動13ヶ月又は過去1カ年の平均)

年	1日1頭当たり乳量(kg)		平均乳成分率(%)			平均乳量(kg)	
	経産牛	搾乳牛	乳脂率	乳蛋白質率	無脂固形分率	搾乳牛1頭当たり305日補正成績	経産牛1頭当たり年間成績
H24.12月	29.3kg	32.4kg	3.86%	3.32%	8.79%	11,911kg	10,840kg
H25.12月	29.6kg	33.4kg	3.74%	3.33%	8.82%	12,158kg	11,166kg
H26.12月	29.4kg	33.8kg	3.80%	3.33%	8.80%	12,423kg	10,835kg

(牛群検定成績表より)



牛床と通路にケイ酸カルシウムを散布。
清潔で乾燥した牛舎内部(カウコンフォートを考慮し牛床を延長)



ご本人所有のミルクメーター



国産精液による 着実な改良で実現した高乳量と長命性。

▶ 生涯生産乳量10万キロを突破した国内種雄牛の娘5頭の検定成績

登録番号	産次	総日数(日)	生涯乳量(kg)	総乳脂量(kg)	総SNF量(kg)	総乳蛋白質量(kg)	備考
5555***	7	3,362	125,591	4,581	10,317	3,966	都府県 第15位 ※
6784***	7	2,613	105,663	3,632	8,696	3,248	都府県 第98位 ※
〈参考〉							
1042740***	10	3,449	108,282	4,891	9,646	3,775	検定情報サマリーより
6784***	7	2,613	105,662	3,633	8,695	3,248	検定情報サマリーより
1195465***	7	2,714	100,632	3,444	8,645	3,226	検定情報サマリーより

※は日本ホルスタイン登録協会による証明記録

▶ 毎年確実に遺伝的能力が向上!
全国平均を乳量で320kg、乳代効果で21,000円上回る改良を達成。

遺伝的能力(EBV)

— 除籍牛を含まない現存牛平均 —

区分	乳量(kg)	乳脂量(kg)	乳蛋白質量(kg)	無脂固形分量(kg)	乳脂率(%)	乳蛋白質率(%)	無脂固形分率(%)	乳代効果(円)
H20年	382	+1	+13	+35	-0.14	+0.01	+0.02	+28,460
H21年	677	+8	+27	+67	-0.16	+0.05	+0.08	+55,129
H22年	1,269	+17	+31	+95	-0.31	-0.10	-0.16	+91,341
H23年	939	+26	+27	+79	-0.11	-0.03	-0.03	+76,466
H24年	1,398	+38	+44	+126	-0.17	-0.02	+0.03	+116,436

(牛群改良情報2014-8月より)



換気を重視した牛舎内部と外観

